

パピメント



8. トウペサソペ

表紙 中本ムツ子

クボニタ ミーミーセコロ クチシペ ネクス  
ミーコ セコロ クレハ アンナ

カニアナクネ アリキンネ イソンメノコ クネクス  
ピイエ エルム ポロンノ クコイキ ワ カン

私は小さいころミーミーと啼いていたので  
ミーコと名前がつきました。

私はとっても狩りがうまいので  
ふとったネズミをたくさんとります。

カツナイ オルン ワッカ ピリカ ア ヒタ

浜田 隆史

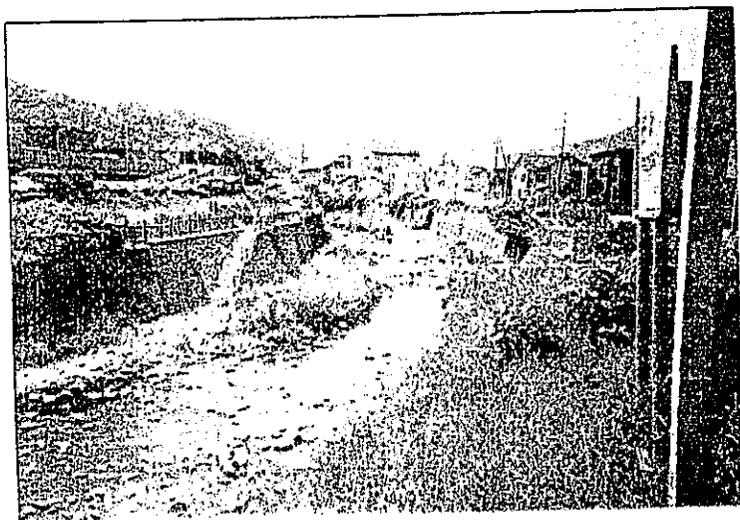
カツナイ ク・エラマス ナイ。 テエタ アナクネ、  
ナイ オッタ チエフ ポロンノ オカ ワ、  
トマリ オッタ ヘロキ アツ ワ、  
ウエシノツチャ ワ ウエミナ ハウエ ネ。

アンペ ネ? ソモ ネ ナンコラ? タネ アナクネ、  
オルン ワッカ ウエンノ イチャツケレ ワ、  
ヌブキ クス ク・ヌカラ ヒク・エラムイクルクル。  
ウエン ナイ ネ ワ アン シリ ネ。

カツナイ オルン ワッカ ピリカ ア ヒタ、  
ウタリ ケウトウムフ カ ピリカ ロク ナンコロ。  
タネ ネア ナイ プトワ タ ア・オウリ ナイ アン。  
テエタ タン ウシケ タ マカン ポロ ウソロ シピラサ  
タネ ア・ヌカラ カ エアイカブ。 ヤ?

カツナイ ク・エラマス ナイ。 ナイ プトワ タ、  
イソ フラ ピリカ ワ カピウ ホブンパ。  
オタルナイ オッタ アラキ ワ インカラ ヤン。  
カツナイ ピリカ ナイ ヘ ネ ヤ?

カツナイ フェリーターミナル オロワ ポロ チフ  
アトウイ トモトウイエ アラバ シリ ネ。



“ Katsunaigawa - river ” (北海道小樽市勝内川)  
(地元の立札には「<sup>ていせいの</sup>下<sup>かみ</sup>川にも三ヶ国語ど」  
「川」と書いてあります。バチエラーみたし。)

勝内川の水がきれいだった頃

浜田 隆史

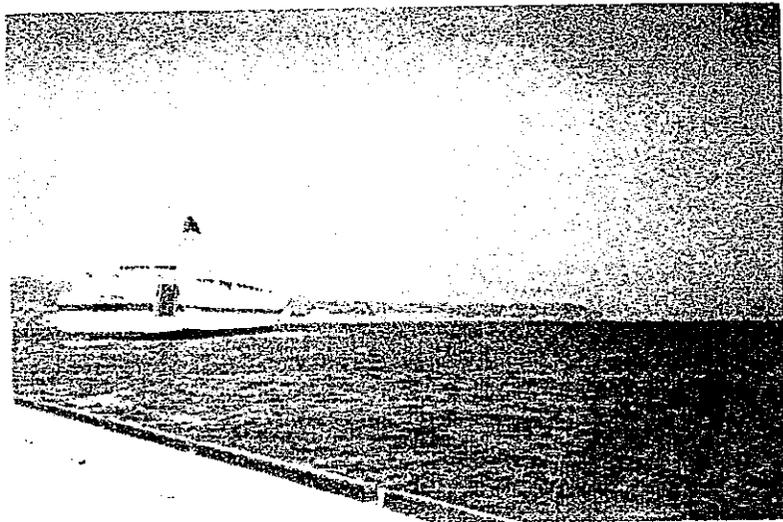
勝内は大好きな川。昔は、川には魚が沢山いて、入り江にはニシンが群れていて、互いに遊んだり笑ったりしていたという。

本当かな？ 違うんじゃないか？ 今は、川の水はひどく汚れて、濁っているの見るのも嫌だ。悪い川になってしまった。

勝内の水がきれいだった頃は、人々の心もきれいだっただろう。今 その川口には運河がある。昔はこの場所で どんな大きな入り江が広がっていただろうか？ もう知るよし(由)もない。

勝内は大好きな川。川口では、磯の香りがすてきで カモメが飛ぶ。小樽に来て見て下さい。勝内はよい川でしょうか？

勝内フェリーターミナルから大きな船が海を横切って行きます。



## 拝啓 パルンペご一同様

カンピ エン・コレ ワ ソンノ イ  
ヤイライケレ。中川さん、松尾さん、成  
田さん、大野さん、丹菊さん、片山さ  
ん、ア・イワンケノ オカ・アン ヤ?

関東 オロタ シリセセク ナンコン  
ナ。コロカ、タン サク アナクネ シリメ  
マン ナンコロ セコロ、ア・イエ ク  
ス、トイ オルン ペ アナクネ ホタシ  
ヌ ケウトウム ク・ヤイコロパレ。サク  
アナクネ シリセセク ワ ピリカ。

ク・アニ アナクネ 会社 ク・ソイネ  
ヒ オロワノ ク・ヤイヌ ヒ コラ  
チノ ウサ オカイペ ク・キ コロ  
ク・アン。アイヌモシリ タ ク・トウフ  
ヒ オロワノ ウタリ協会 コロ アイ  
ヌイタク 教室 オルン ク・アフン。エ  
パカシヌ クル アナク 沢井アクさん  
(イサイカ イタク、モシリ レへ)、奥  
田統己さん(ホカンパ イタク) ネ ル  
ウエ ネ。

アクさん アナクネ ウタリ協会 サツ  
ポロ支部長 ネ ワ シノ ニシパ ネ。  
中川さん コロ チトセ ウン クル カ  
ンピソシ カンナ カンナ エイワンケ。  
「中川尊師 ヌイエ カンピソシ ヘ  
タク ピラサ ハニ!」セコロ イエ  
コロ エパカシヌ。奥田さん カ ウコロ  
チノ アン ペ イエ ワ アン ア。  
(中川さん、イテキィ イルツカ ヤン。)

コンピューター オルン バチエラー  
カンピソシ ク・ヌイエ ア コロカ、  
タネ アナクネ、「アコロイタク」テキス  
ト ク・ヌカラ コロ イタク ク・ヌ

イエ コロ ク・アン。索引 イサム ク  
ス ク・カラ クスネ ワ。アイヌイタク  
教室 オルン ア・エパカシヌ クル  
アナクネ ネアンペ コロ ルスイ コロ  
オカ。バチエラー カンピソシ アナ  
クネ テ パクノ 3000イタク シサム イ  
タク ク・タサレ ワ オケレ。

ク・アニ カ ナア アイヌイタク 勉  
強 ク・キ クスネ ワ、ウタリ オビツ  
タ パルンペ オッタ アリキキノ カ  
ンピ カ カンピソシ カ カラパ ヤ  
ン。ク・アニ カ 原稿 ク・ヌイエ  
クスネ ナ。イエイ!

1995年7月24日

浜田隆史

### CM



ク・コロ CD「カビウ ホブンバ」アナクネ  
9 チュフ オロワ ア・ホク ナンコロ。  
ギターソロ ネルウエネ。

Pon kotankorkurpo<sup>121</sup> Antowanu du Sant-Ekusuperi

(札幌市在住 井筒)

Iwanpa ku=ne hi ta, onne nitay<sup>122</sup> oruspe a=nuye, "sonno an a oruspe" sekora=ye re kor kanpisos<sup>123</sup> or ta a=ramtuy noka ku=nukar. Or ta anakne, sine cikoykip ruki kor an poro tokkoni a=nuye wa an. Tanpe nea noka k=eykoysampa wa ku=nuye p ne ruwe ne.<sup>124</sup>

Nea kanpisos or ta anakne, ene a=nuye wa an: "poro tokkoni utar epi,<sup>125</sup> kuykuy ka somo ki no, ruki wa isam ruwe ne. Orowa, tane moy moy ke eaykap hine, honihi onnay ta okay pe isam pakno, iwan cup epitta mokor ruwe ne."

Toanpe ku=nukar wa, poro nitay tumu ta okay pe k=eyaykosiramsuye ayne,<sup>126</sup> iro kor kanpinuyep ani<sup>127</sup> ku=kor hoski noka ku=nuye.<sup>128</sup> Ku=nuye hoski noka.<sup>129</sup> Hoskino ku=nuye noka anakne ene an:<sup>130</sup>

Ku=nuye pirka p<sup>131</sup> rupnekur utar ku=nukare wa ku=nuye noka eci=sitoma ya ku=kopisi.

En=koytak:<sup>132</sup> "Hnta kusu konci asitoma ya?"<sup>133</sup>

<sup>121</sup> いきなりタイトルから迷ってしまった。原文は、Le petit princeで、「幼い」または「小さな」「王子」位の意味だがpon kotankorkur poho (小さな国持つ者の子)だと、(小さな)が国持つ者に掛かってしまう可能性がある。また、(国持つ者の子)の全員が王子になる訳ではない。物語りの内容上王子は小さな星を一つ治めている、または持っている者なので、結局「小さな王様」位の意味を狙ってこのような表現にとりあえず決定した。

<sup>122</sup> 原文は、la Forête Viergeで「未開の」あるいは「手つかずの」「森」、つまり「原始林」であるが、「古い、歳を取った森」位の意味の表現を選んだ。

<sup>123</sup> これはkor re "sonno an a oruspe" ne kanpisos (それ持つ名前「本当にあった話」である本)とも表現できる。

<sup>124</sup> lanpe (これが)が主語、nea noka k=eykoysampa wa ku=nuye p (その絵を真似て僕が描いたもの)が補語。

<sup>125</sup> (大きな蛇たちが) e (食べる) p (物)に分解でき、原文のleur proie「彼等の餌」の意を意図している。epiとなっているのは、所属形を取っているため。

<sup>126</sup> 原文はJ'ai alors beaucoup réfléchi sur les aventures de la jungle et, (そこで、僕はジャングルでの出来事について沢山考えてそして、)の意。(沢山考えてそして)をk=eyaykosiramsuye ayne (僕考えたあげく)と表現した。

<sup>127</sup> 原文は、avec un crayon de couleur (色鉛筆で)だが、(鉛筆)に当たるアイヌ語が見つからないため、服部等のアイヌ語方言辞典の「筆」という語の沙流の項にあるkanpinuyepを用いて、iro kor kanpinuyep ani (色持つ筆で)と表現した。「鉛筆・筆」は、さしずめa (人) e (それで) i (もの) nuye書くp (物)位になろうが、造語は原則としてしないので、辞典にある語を取った。

<sup>128</sup> 原文は、j'ai réussi...a tracer mon premier dessin. (僕の最初の絵を描くことに成功した。)であるが、(成功した)はくどいので、ku=kor hoski noka ku=nuye (僕の最初の絵を描いた)とした。

<sup>129</sup> 原文はMon dessin numéro 1. (ぼくの絵第1号。)

<sup>130</sup> 原文はIl était comme ça: (それはこのようだった。)。アイヌ語で「それ」は出ないので、唯単にene anでも良いかも知れない。

<sup>131</sup> 原文はmon chef-d'œuvre (僕の傑作を)だが、アイヌ語で「傑作」の意の語が見当たらないので、ku=nuye pirka p (僕の書いた良いものを)とした。

<sup>132</sup> 原文はElles m'ont répondu: (彼等(性は女性だが意味は単に「大人」)は僕に答えた: )の意味。

<sup>133</sup> アイヌ語方言辞典で「帽子」を見ると、konci とsapanpeの二つが沙流の項にあるが、後者は特別な場合に身につけるものであるので前者を選んだ。しかしkonciは、「頭巾」の意である。

「小さな王子」（「星の王子さま」）

アントワーヌ・ド・サンテグジュペリ作　イトウチ訳

私は6歳の頃あるとき、ある素晴らしい絵を「実話集」という、原始林についての本のなかで見ました。それは野獣をのみ込もうとしている、ボアという蛇を描いたものでした。ここにそのイラストの写しがあります。

その本にはこう書いてありました。「ボアという蛇は獲物を噛まずに丸ごとのみ込みます。そのあと、動けないでいて消化のために以後6カ月のあいだ眠ります。」

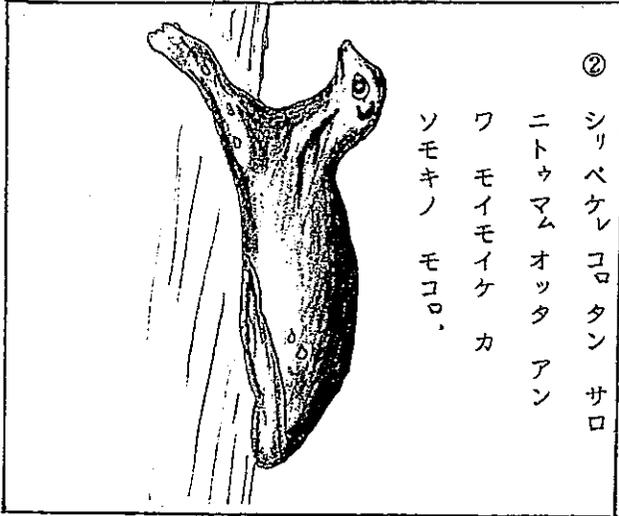
そこで私はジャングルでの冒険についてよく考え、今度は自分の番とばかりに、色鉛筆で私の初めてのイラストをうまく描きあげました。私のイラスト第一号。それはこんなぐあいでした。

私は自分の傑作を大人たちに見せました。そして私のイラストが怖くはないかと尋ねました。

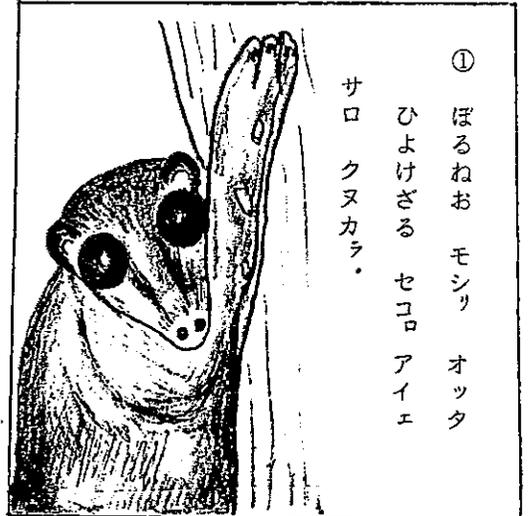
彼らはこう答えました。「どうして帽子が怖いんだい？」

# レフンモシッ オッタ (8)

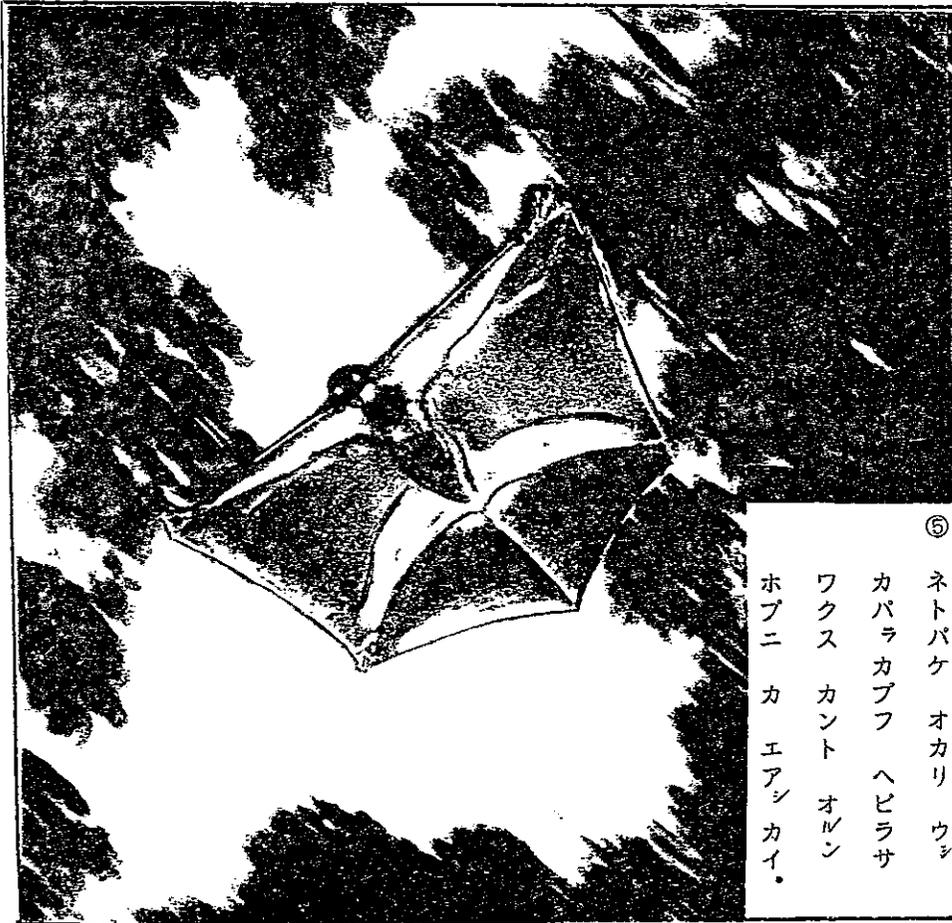
カント オロベカ アラバ サロ (アツヌブリ)



② シリベケレ コロタン サロ  
ニトウマム オッタ アン  
ワ モイモイケ カ  
ソモキノ モコロ.

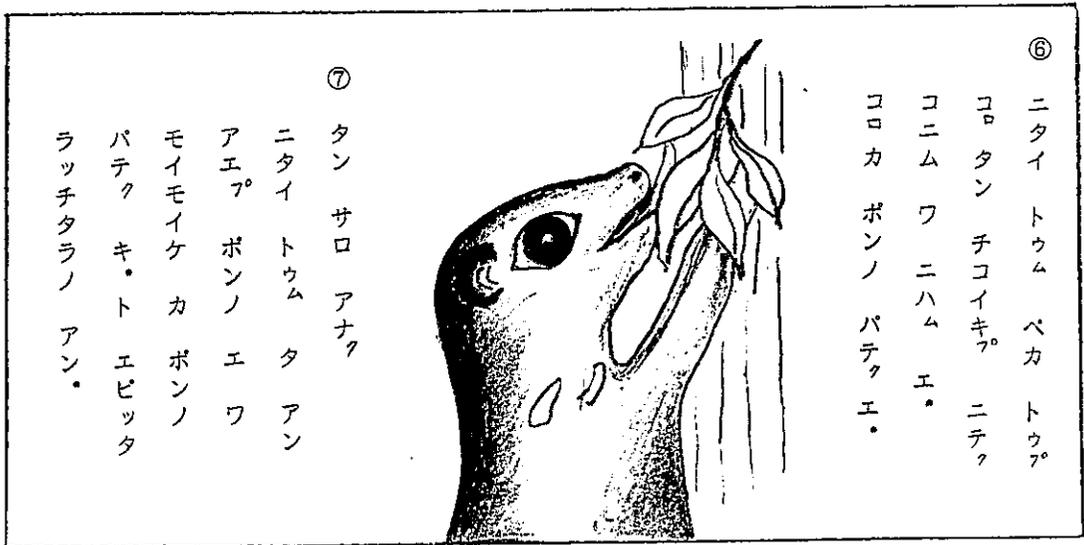


① ほるねお モシッ オッタ  
ひよけざる セコロ アイエ  
サロ クヌカラ.



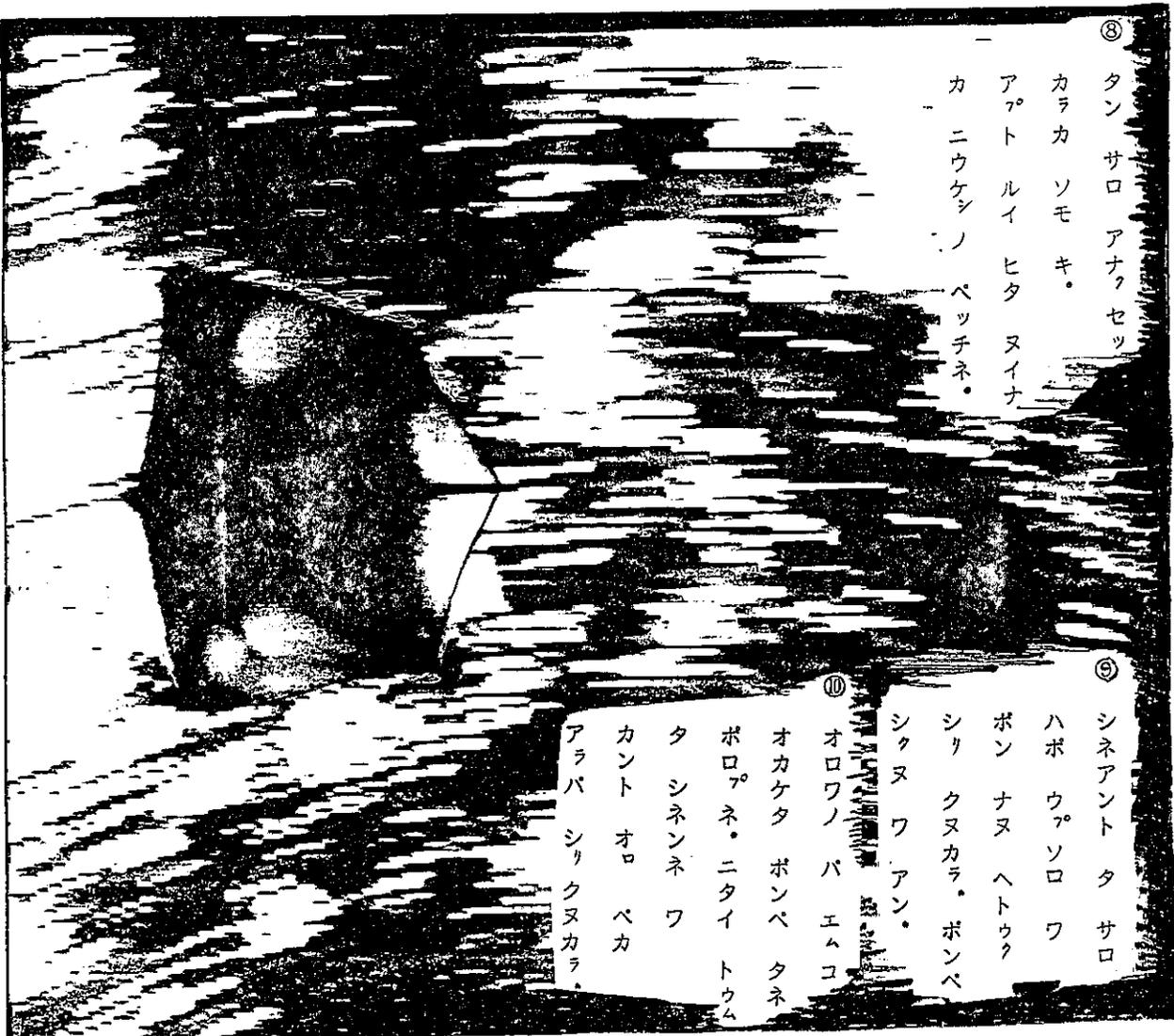
③ シツクンネ コロ  
モソソ ワ ボンノ  
ボンノ ニコニム.

④ ニキタイ バクノ シレバ  
ワ エクシコンナ ニ  
オロワ ホブニ・コロカ  
ハチリカ ソモキ.  
⑤ ネットバケ オカリ ウシ  
カバラカブフ ヘピラサ  
ワクス カント オルン  
ホブニ カ エアシカイ.



⑥ ニタイ トウム ベカ トウワ  
 コロタン チコイキッ。 ニテッ  
 コニム ワ ニハム エ。  
 コロカ ポンノ バテッエ。

⑦ タン サロ アナッ  
 ニタイ トウム タ アン  
 アエッ ポンノ エワ  
 モイモイケ カ ポンノ  
 バテッ キ・ト エピッタ  
 ラッチタラノ アン。



⑧ タン サロ アナッセツ  
 カラカ ソモ キ。  
 アッ ト ルイ ヒタ ヌイナ  
 カ ニウケシノ ベツチネ。

⑨ シネアント タ サロ  
 ハポ ウアソロ ワ  
 ポン ナヌ ヘトウッ  
 シリ クヌカラ。 ポンベ  
 シクヌ ワ アン。  
 ⑩ オロワノ バ エムコ  
 オカケタ ポンベ タネ  
 ポロッネ。 ニタイ トウム  
 タ シネンネ ワ  
 カント オロ ベカ  
 アラバ シリクヌカラ。

## 海外見聞談(8) 片山龍峯

### 空を飛ぶ猿

- ①ボルネオ島でヒヨケザルという名の猿を見つけました。
- ②日中は木の幹に止まっていて、動きもせずに眠っています。
- ③辺りが暗くなると目を覚まし、少しずつ木を昇っていきます。
- ④木のとっぺんに着くと、突然、木から飛びたちます。しかし  
落下はしません。
- ⑤体を覆っていた薄い皮膜が広がるため、空に飛びたつことができるのです。
- ⑥この動物は森を移動しながら木の枝に昇り、葉を食べます。  
しかし、少ししか食べません。
- ⑦森にある食べ物をほんのわずかだけ食べ、あまり動かず、ゆったりと  
暮らしているのです。
- ⑧この猿は巣を作らないため、大雨が降っても隠れる所がないので  
びしょ濡れになっています。
- ⑨ある日、母猿の懐から小さな顔がのぞいているのを見つけました。  
赤ちゃんが生まれたのです。
- ⑩それから半年後、その赤ちゃんはもうすっかり大きくなっていて、  
ひとり森の中で暮らしながら、空を飛んでいました。

(実はヒヨケザルは、分類学上サルには属しません。かといって他の仲間にも属さず、ヒヨケザルだけの科に分類されていて、研究者でさえ見ることが稀な動物です)

### 〔原稿検討会で〕

アイヌ語で「空を飛ぶ」という表現は、意外と難しいものであることを知りました。ホブニは「飛ぶ」という意味ですが、この言葉にはジャンプする、つまり、飛び立つ、という意味しかなく、ヒヨケザルが滑空する(またはトンビが空をゆっくり輪を描いたり、鳥が渡る)時のような場合には使えない単語だそうです。ですから④や⑤のような、飛び立つという時にはホブニでいいのですが、⑩のように空を飛ぶという時には、カント オロベカ アラバ(天・の所・の面的な場所を・行く)と言い換えました。

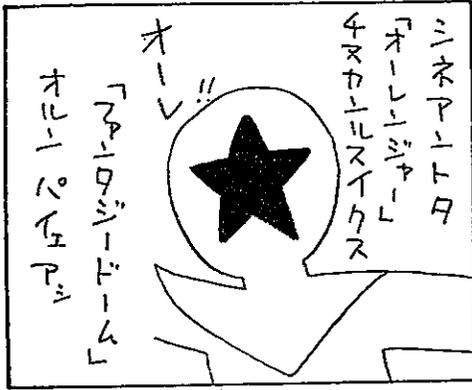
日本語訳は16ページにあります。

エクソコト新連載

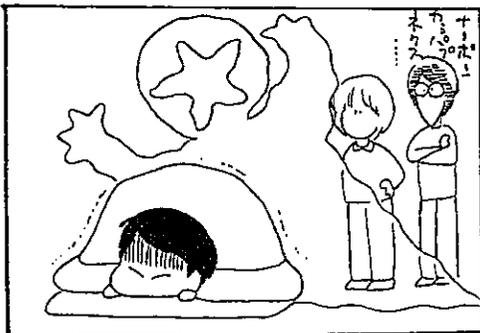
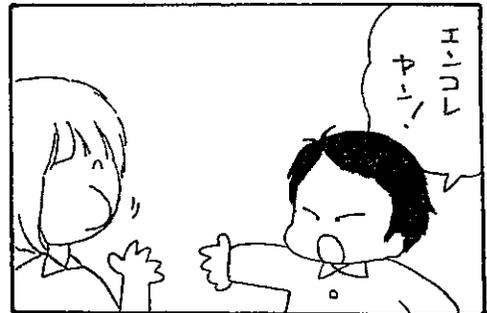
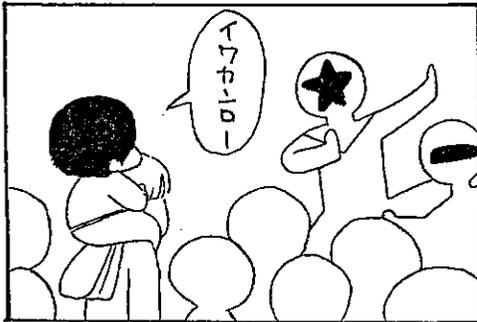
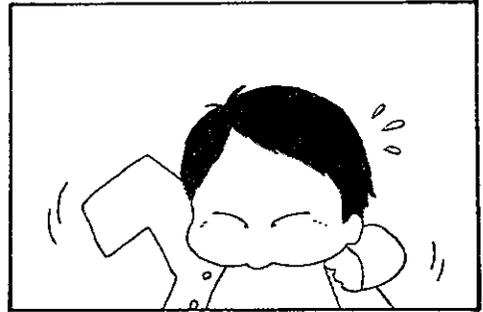
ミラオイ オ、ワ

クコロソ

① 4カラハ



コロカ、ポ、ニ、  
4ヌカ、ラ、ア、ク、ス  
ク、コ、ロ、ソ、ニ  
エ、ネ、ハ、ウ、エ、ア、ニ



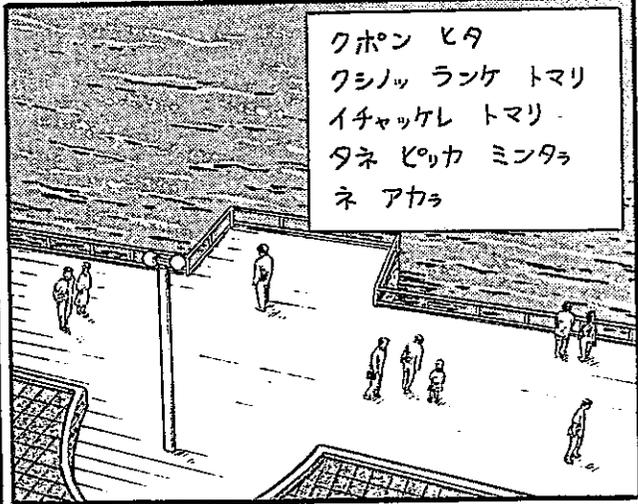
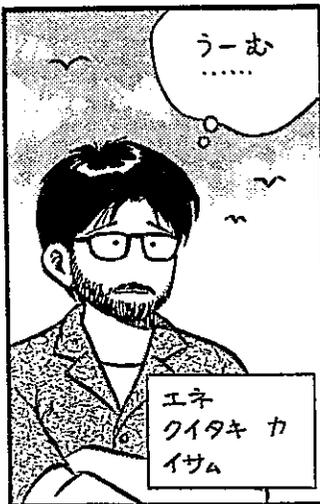
# アズモシ オツタ

oruspe 8

成田英敏 (埼玉)



イヨツタ イヨッノ クエッヒ  
オロワ タネ トッパ イカシマ  
ワンパ ネ クス。  
ネイタ カ クエラミシカレ コタン タ  
クエッ コトム シラン





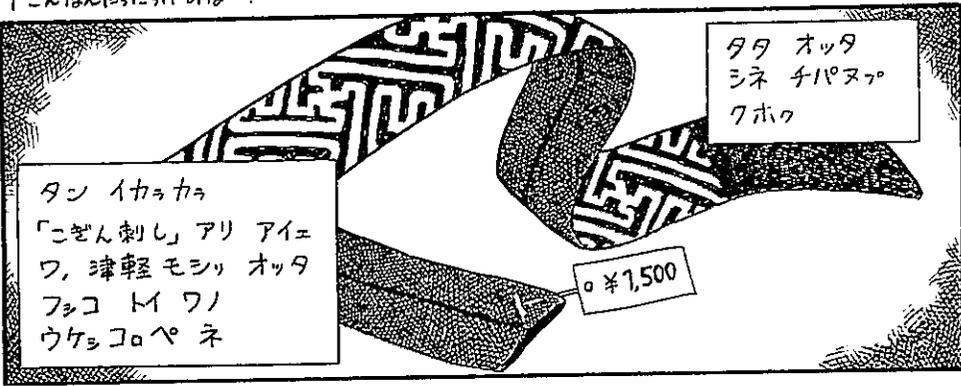
ピリカ

あすはむ オンナイ タ  
青森 オッタ アカラペ  
ヘネ アイワンケア  
ヘネ アヌカラカネ  
アイホク



イヨッタ クエホマトウア  
アナ ソノ ホロ  
ウラミツト ネ コトウ アン  
チセ ネ ルウエ ネ  
(「あすはむ」アリ アイ (ウエネ))

↑こんばんは、おはようございます?



タン イカカ  
「ごめん刺し」アリ アイ  
ワ、津軽モシリ オッタ  
フコ トイワノ  
ウケコロペネ

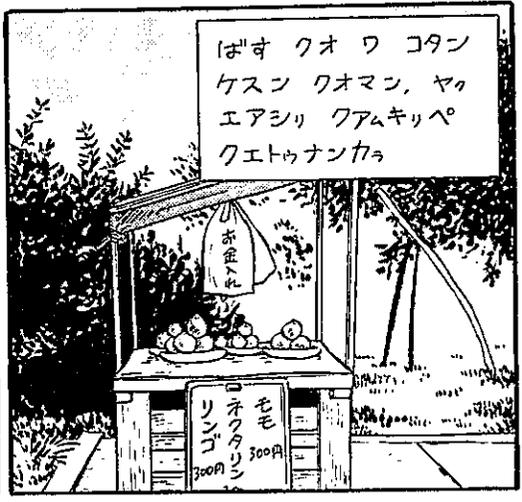
タタ オッタ  
シネ チパヌア  
クホク

¥1,500



ケラアンペ ネ  
エチスクア  
ナンコンナー

りんご アエイト  
シリ クヌカラ コ,  
シノ クエラムリテン  
ルウエネ



ばす クオワ コタン  
ケスン クオマン、ヤク  
エアシリ クアムキリペ  
クエトウナンカ

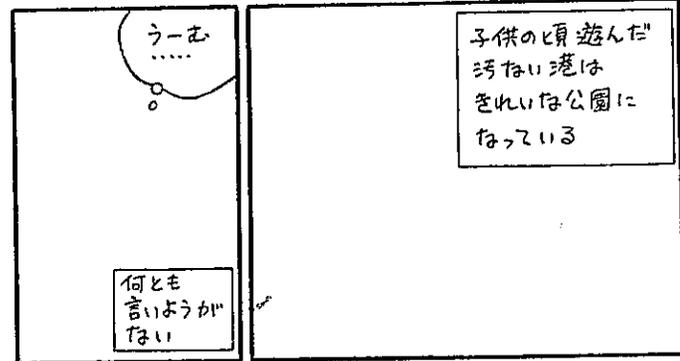
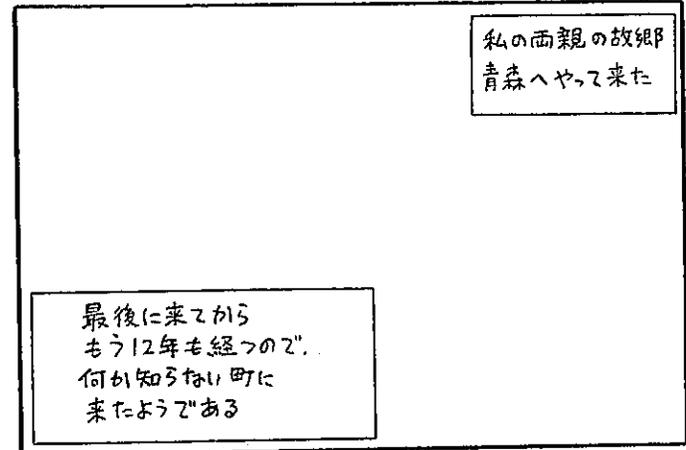
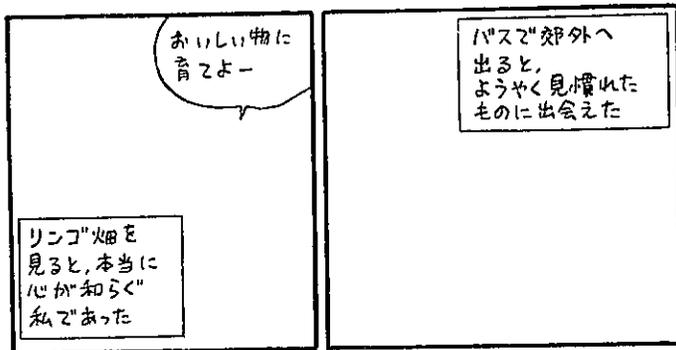
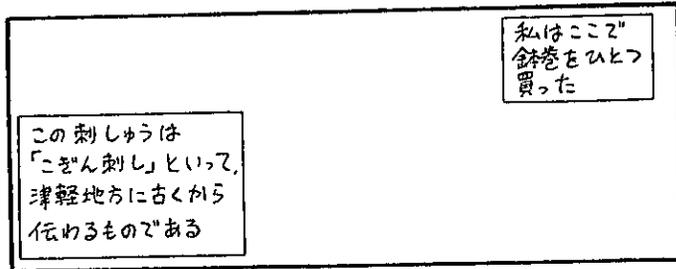
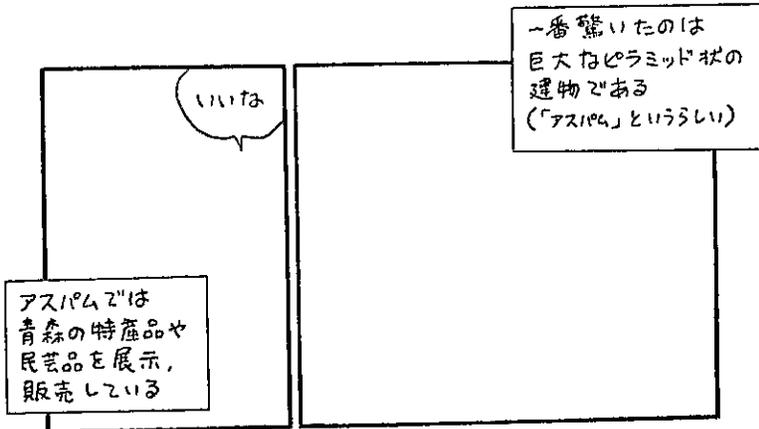
赤金下れ  
リンゴ 300円  
モモ 300円  
ネクタリン

つづく ヒ クエマイコウエペケル

# アイヌモシリ オウタ

その8

成田英敏

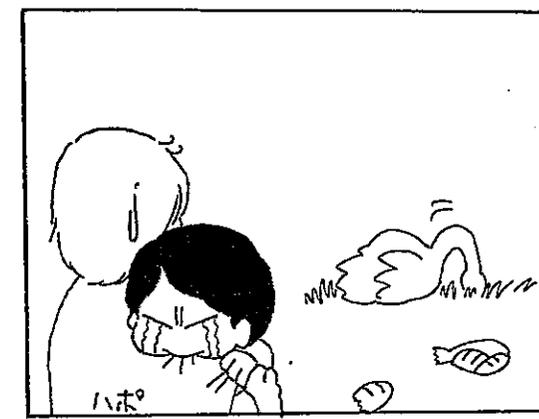
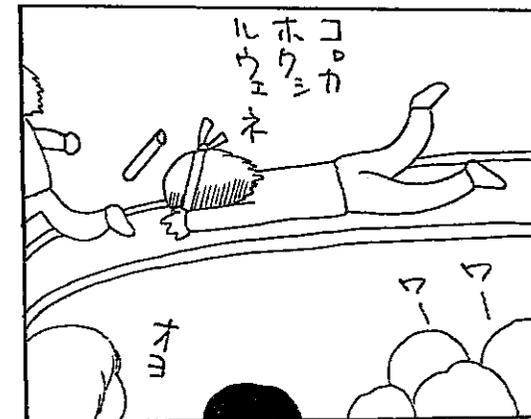
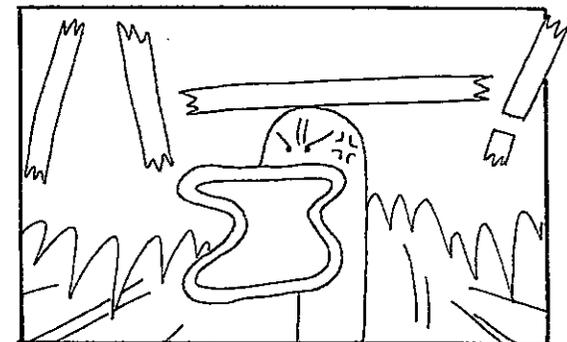
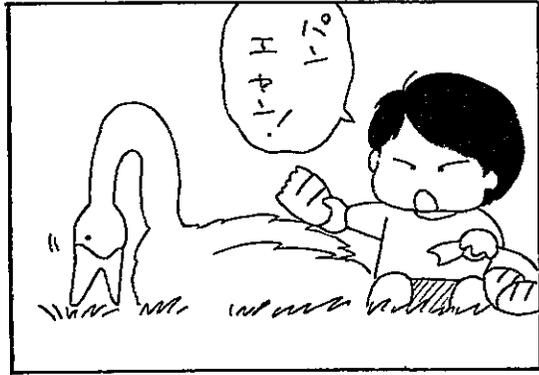


今回、1018号の発行が、かくも遅れてしまった原因は、ひとえに成田の怠慢にあります。投稿いただいた方々、購読者の皆様におわび申し上げます。

## 運動会



## ポロト ウソ レタ...4



サラエペライ (津軽モシ、オッタ アエウパクマ)

テエタ カネ、モユ、ネワ エサマン ウエカタイロツケノ オカイ ハウエネ。  
エサマン アナ、ソノ チェッコイキ エアツカイベ ネ ワ、ランマ カネ チェッ  
モユ、エレ ハウエネ。ヒクス モユ、エネ イタキ、

「ランマ ランマ エイエレ キッ ネ クス、アオカイ カ ネコン エイキ ワ  
チェッ エコイキ ルウェ イエパクマ ヤン」 アリ イタッ。アイケ エサマン  
エネ イタキ、

「ホカンパッ カ ソモネ ナ」 アリ イタッ。

「インカ、クス、タッコ。ユッケ アンチカッタ、ペトツタ サパン ワ コンル シ  
ンパイ アカ、ワ、オロ アサラ アエウシ コ、ネ オカリ チェッ ポロンノ コ  
トイセ ナンコ。」 アリ イタッ ハウエネ。

「ヤクン、タッコ。ユッケ アンチカッタ、ペトツタ サパン ワ チェッ アコイキ  
クスネ」 アリ。

オロワ、タッコ。ユッケ アンチカッタ ペトツタ サン ワ、コンル シンパイ  
カ、ワ、オロ サラ エウシ ハウエネ。シンルプ、ワ エネ イキ イカ イサ  
ムペ ネ クス、

「ワッカ ナム フミ！」 アリ イタッ カネ トウナッノ エタイエ。ココカ、シネ  
チェッ ポカ イサム クス、スイ アサラ アエウシ ヤ、ピッカ アリ ヤイヌ ワ、  
イルカイ ネコ エタイエ コカ ネッ カ イサム、タネ レスイ アキ クス ナ  
オホンノ アエウシ クスネ アリ ヤイヌ ワ、シッペケレ パッノ エウシ ワ ア  
ン、サラ ルプ、ワ エタイエ カ エアイカ、ハウエネ。アイネ アイヌ オロワ  
アパ ワ、トイ ライ ウェン ライ キ ワ イサム。

アイヌ語拙訳／成田英敏



## 尻尾の釣り (津軽民話)

むがし、狸ど川獺ど兄弟分であったんだどし。川獺<sup>あ</sup>魚獲りに上手で、<sup>\*</sup>むったど狸さ  
ごちそうするんだどし。<sup>\*</sup>したどごで狸<sup>あ</sup>、  
「我<sup>あ</sup>むったど、お前のごちそうになるんだや、我<sup>あ</sup>さも魚の獲り方<sup>しか</sup>教えてけるじゃ」  
て、言<sup>し</sup>たってな。したけ<sup>あ</sup>川獺<sup>あ</sup>、  
「なんも難しぐないもんだ」って、言<sup>し</sup>たってな。  
「あのさ、<sup>\*</sup>しばれだ晩げに川の氷さ穴あげで、尻尾入<sup>い</sup>ておげば、その尻尾さ魚<sup>あ</sup>なんぼ  
でも付<sup>い</sup>ているはんで」って、言<sup>し</sup>たってねし。  
「そうせば、しばれだ晩げに川さ行<sup>い</sup>って魚<sup>あ</sup>獲る」って。  
そうして、しばれだ晩げに川さ行<sup>い</sup>って、氷さ穴あげで、尻尾入れ<sup>い</sup>だって。さあしばれ  
でるもんだどごで、  
「<sup>\*</sup>しゃっこいなあ」って、すっぽらど上げだどし。したばって、なんも付<sup>い</sup>て来ないず  
し、まだ尻尾入れ<sup>い</sup>ばいいど思<sup>い</sup>って、しばらくしてがら上げだばって付<sup>い</sup>いでないし、三回  
目だば少し長く入<sup>い</sup>るど思<sup>い</sup>って、夜<sup>あ</sup>明<sup>け</sup>るま<sup>ん</sup>で入れ<sup>い</sup>てお<sup>い</sup>だけ<sup>あ</sup>、尻尾<sup>あ</sup>凍<sup>み</sup>で拔<sup>け</sup>  
なくな<sup>っ</sup>たんだどし。とうとう人の目にかがって、殺<sup>さ</sup>れ<sup>て</sup>しま<sup>っ</sup>た<sup>っ</sup>てねし。

《西津軽郡木造町・対馬ツナさん（明治37年生まれ）の伝承》

- ※ むったど=いつも
- したどごで=それだから
- しばれだ晩げ=凍りつくような寒い晩
- しゃっこい=つめたい

### — 作品解説 —

この民話は、佐々木達司編著『津軽の民話』（日本民話の会、1994）に収録されてい  
たものである。佐々木氏の採訪日誌には、1984年とあり、対馬ツナさんは当時79歳との  
ことである。一読して分かるとおり、知里真志保編訳『アイヌ民譚集』中の“Panampe  
konru shimpui kar wa oro chiyehe eushi”と同類である。この点については、関敬吾  
氏の解説に詳しいので、参照されたい。『津軽の民話』には、他にも、“Panampe opke  
orushpe” と殆ど同じ内容の、「屁ふり爺コ」という話があり、アイヌ民話との関連  
が推察されて、非常に興味深い。



エ4イワシヤ?

クイワシヤ カシワ。

「キラウ」クヌイカソモキ クス  
エ4オイラ ナシゴロ。

ソシ / クヤカバフ° ルウエネ。

オトウタヌ 「バルンペ」 オツタ

ソシ / ソシ / クヌイ クス

イナキ オイラ /

ヌカラ ヤシ。

皆さんお元気ですか?

私は元気です。

「キラウ」を描かないので。

皆さんお忘れのことでしょう。

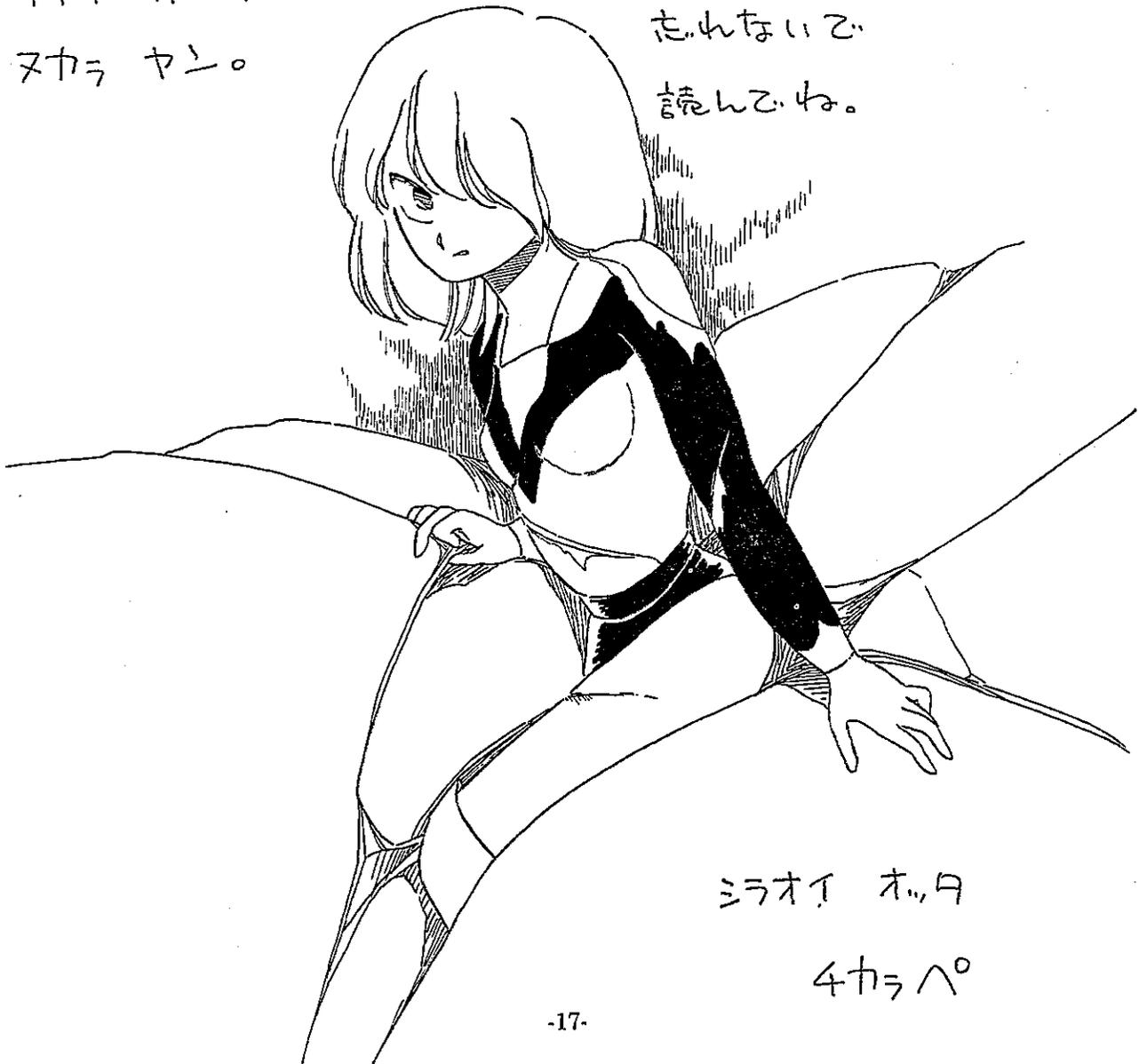
本当にごめんねさ。

次の「バルンペ」に

必ず描きますから

忘れないで

読んでね。



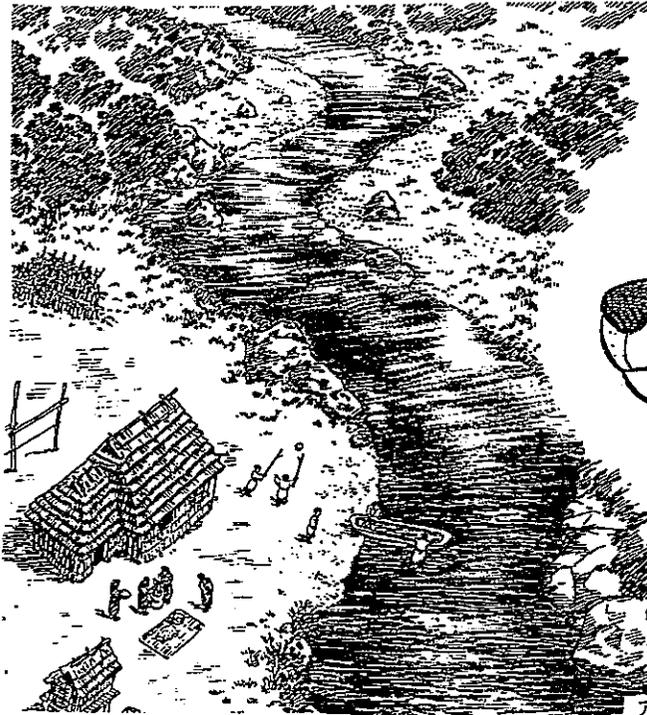
ミラオイ オツタ

4カラハ°

音声テープ付き

『絵本 - カムイ ユカラ』

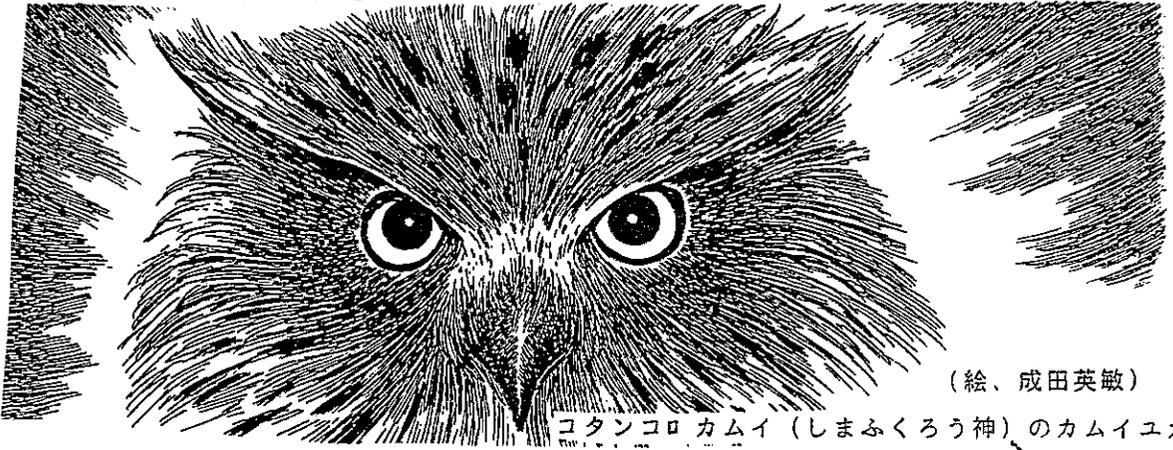
- ★ 日本語が一切出てこない、アイヌ語だけの絵本です。
- ★ 千歳地方の6つのカムイユカラ を収録。
- ★ 語り手は、白沢ナベさんと、中本ムツ子さん。お二人の音声テープ付き。
- ★ 絵は、成田英敏さん、西山史真子さんなどアイヌ文化に精通した画家が担当。
- ★ 絵本はB5横判で、192ページ。
- ★ この他、「解説書」が別冊で付きます。
- ★ 「解説書」は、中川裕先生の監修で、120ページ。英訳付き。
- ★ 絵本、音声テープ、解説書、の3点セット。
- ★ どなたでも苦労しないで自然にカムイユカラ が語れるよう工夫されています。
- ★ 価格は、6800円



(絵、成田英敏)

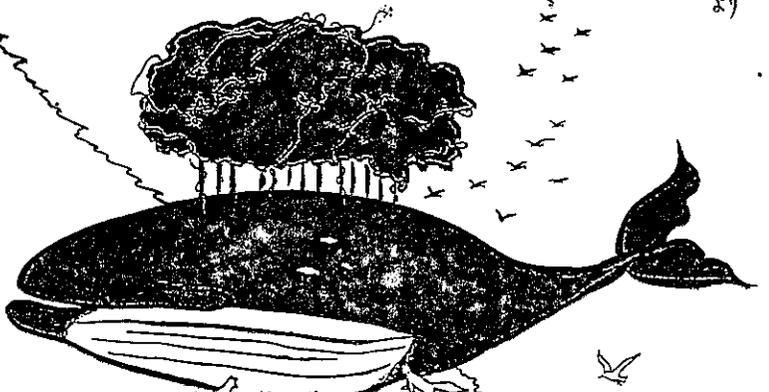
アトウサチロンヌッ。(裸のきつね)のカムイユカラ  
より

【内容見本】



(絵、成田英敏)

コタンコロカムイ (しまふくろう神) のカムイユカラ ㊦



(絵、松田純子)

フンベカムイ (鯨神) のカムイユカラ ㊦

ワオカムイ (あおぼと神) ★ お申し込みは、下記のところまで

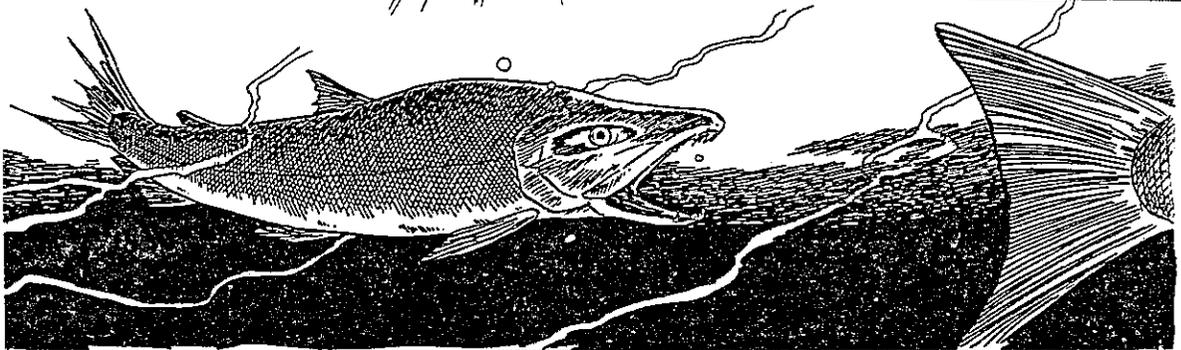
のカムイユカラ ㊦

(絵、西山史真子)

片山言語文化研究所

〒180 東京都武蔵野市吉祥寺東 2-43-11

ハガキでお願い致します



# ミネチ

(ひとことコーナー)

テエタ 早稲田 オッタ ホリッパアシ。  
 チミビ ソン) ピリカ。  
 テワ) アリキキアシワ  
 ホリッパカ ソン) ピリカ) クルスイ。

原田 久美子



タンパ (1995)、アイヌ イタク  
 エラマン ルスイ グル ホシキ / アン  
 パ アツカリ ポロ ナンゴ。

クエマイ コフンテワ。  
 オマバ ネヤツカ  
 ナア ポロン)、アイヌ イタク  
 エラマン ルスイ グル  
 オカイクニ クミ  
 タパンナ。 おおの てつと



(大野 徹人)

ソン) クウエン ルウエ タンナ。  
 クヌイエ 原稿 イヨッタ イヨシ) クカオ オケレ  
 ワクス, 「110ルンペ トウヤサンヤ」 タン コラチ  
 モイレ) エチコサンケ ルウエ ネ ワ。



成田

12-チユフ 下ト、アイヌイタク コアリキ  
 オツカイボ ウタヲ メノコボ ウタヲ  
 早稲田大学 オッタ ウエカヲ パワ  
 アイヌイタク アニ 劇 ネヤ、ホリッパ  
 ネヤ、ウボボネヤ キコ。 オカ。



中川

年末ニナツタロアゴロカ 北海道 オルン  
 クホラヒ カ ソモキワ コナハカ クヌカ  
 クヌカ カ ソモキ。

ハホ ミチ エチイワンケヤ!?



いとろち

## 8号後記

7号を出してからもう一年近く経ってしまいました。私を含めまして、編集スタッフが大変忙しくなってしまうと、なかなか集まることも難しくなってしまったために、投稿された方にも購読されている方にもご迷惑をおかけいたしました。心からおわびいたします。その代り、編集スタッフの一員である片山龍峯（アシ ヌプリ）さん、成田英敏さんらが中心になって『カムイユカラ』というテープつきの絵本を刊行いたしました。アイヌ語の教材としてとても役に立つものだと思います。詳しくは本誌の18-19ページにありますのでお読みください。4月からは新学期ということで、新たに体制を立て直すことにいたしました。今後は最低年3回の発行をめざして頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。（中川）

今回の表紙は千歳の中本ムツ子さんのイラストです。このイラストは中本さんが広告の紙の裏にミーコを何気なくスケッチしたものです。ところが、この二日後になんとミーコは車にはねられてオヤモシリへと行ってしまったのです。ふだんスケッチなどまったくしたことのない中本さんが、その日にかぎってミーコの姿を描いたというのは、なんとも不思議な感じがします。（アシ ヌプリ）

バルンペ第8号

編集　バルンペ編集部

発行日　1996年3月20日

投稿原稿送付先

〒263 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学文学部　中川研究室